

# 08

GARAGE LIFE EXAMPLE

住宅をリフォームして  
念願のガレージを手に入れた。

神奈川県 関根邸

クラシックカー・MGA ラリーなどに出席する関根さん。

クルマを購入したことがきっかけでガレージの増設を考えた。

そのクルマは、前オーナーの意志を引き継ぎ乗って楽しむもの。

クルマを維持する秘訣、それこそがクルマへ注ぐ愛情である。

photo/Masaya-ABE(阿部昌也) text/Jun-IISHIHARA(石原 淳)

special thanks SAFTY LIFE  
phone/052-221-8684 http://www.safety-l.com/



フィックスになっているリビングからの窓は関根さん  
がオーダーしたもの。リビングとガレージは玄関から  
出入りしなくても、ドアにより行き来できる。



1台分の屋外のガレージの奥に、  
ひっそりとクルマが鎮座する関根さん。  
住宅をリフォームするときに、  
クルマのサイズを確認しながら設計している。



オイル交換や、キャブレターの調整など季節、気温によりガレージで調整する間根さん。当然、エンジンからはオイル漏れがするため、クルマの下にカーペットを敷いて対策済み。

## 08 往年の名車をガレージ保管。 クルマを整備する喜びがある。

GARAGE LIFE EXAMPLE  
A RESIDENCE OF SEKINE

神奈川県三浦郡。夏となれば湘南ビーチ、花火大会に観光客が訪れる地にガレージハウスを手に入れたのが間根貴さん。横浜まで電車で通勤するクラシックカーフリーだ。間根さんは今まで、横浜で暮らし、クルマをカーカバーで守っていたがご両親の高齢もあり近所での物件を約2年探していた。そして、今回取材させていただいた木造2階建ての物件を手に入れることとなり、晴れてガレージライフを楽しむこととなった。

取材に伺ったのは、1957年式MGA。英国製ラ

イトウエイトのスポーツカーに入るガレージ。話を伺ってみると、某30年の住宅を手に入れた時は和室だったという。夫婦2人で暮らす間根さんは、和室をリフォームすることでガレージにするという大胆な発想をし、リフォーム業者と打ち合わせを繰り返した結果、今のようなガレージの姿となった。今回、依頼したりリフォームを担当した業者さんは、「ガレージのガの字も分からず、どうやってガレージにしたらいいか分からず、お互い意見交換しながらだったんですよ」と間根さん。もともとの和室の壁、そして構造をすべて取り壊し、さらには奥行を延長することで実現しているスペースなのだ。

間根さんが、ガレージにこだわったのは理由があるのだ。昔からロータス・ヨーロッパやカニムなどを乗り継いできたが、北軽井沢在住のクラシックカーの発展に貢献した故松平氏が所有していたMGAを譲り受けた話をいただき、購入を決めたときからクルマはなるべく屋根つきのガレージで保管したいと考えていた。そのためにも、なんとかガレージ付きの住宅を考えていたが、新築だとコストがあまりにもか



ガレージの背面に、EG-076標準モーターを設置した開閉部。屋外も隣人との距離があるので奥の問題はない。

かでの中古物を購入し、リフォームすることになったそうだ。よってリビングからはいつでもクルマの姿が見えるようにウイングドウを入れるなどリフォーム業者に依頼したのは関根さん自身だった。

また、リフォームをするときから、ガレージのなかで将来エンジンの調整をしたいと考えていたため、排気ガスの問題は考えていた。クラシックカー特有の、ガソリンが濃い時の排気ガスは体にはよくないと感じていたからだ。そんな折、このクルマでラリーニッポンに出場したときにセーフティーライフ!長谷川代表と知り合い、相談をしたところ設置が決まったといきがついた。コンクリートのバル柱が想像以上に固かったというが、ほぼ標準仕様のEG WAY OUTが導入され、現在はガレージのなかで暖気運転をしても排気ガスはまったく困らなくなったそうだ。

現在、関根さんは友人たちと横浜・元町のスター・バックスでクラックカ一仲間と会い、ドライブに出かけたり、ヒルクライムやラリーなどに参戦してクルマのあるライフスタイルを満喫している。「普段は会社があるので、週末しかドライブできないんですよ」とはいうが、季節によってキャブレター調整、オイルの交換などをするためにガレージにはねにスベアパーツを用意。クルマを磨きながら、次のレースについても作戦を考えていることもあるそうだ。1台のクルマとの出会いからガレージを所有することになった関根さん。これからが、ガレージを謳歌して楽しむ時間が増えるに違いないだろう。



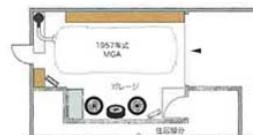
文化シャッター製手動式のスチールシャッターを採用。本当は面倒だが、慣れてしまえば関根さんにとってはエンジン始動の儀式の1つ。

ガレージのなかでエンジン整備をするために、設しかけたEG WAY OUTを手に入れられた関根さん。ガレージのまわりの関係から、シングルアクチュエートEGAS-001の排出側を90度加工して導入。「排気ガスの臭いがないのはすごい」とお気に入り。

## 08

### PLANNING DATA & MATERIALS

コンパクトなガレージにアイデア。  
雑誌、友人からのアドバイスが重要。



**P** PLANNING DATA  
所在地 神奈川県三浦市  
施主 関根 貢さん  
施工者 明  
構造 木造2階建て  
総面積 約245m<sup>2</sup>  
ガレージ面積 約18.5m<sup>2</sup>  
完成年 1957年式 MGA

**O** OWNER'S CHECK  
■一番気にしているところは?  
室内からガレージの窓がめと、導入すること  
ができるた排気システム。  
■ちょっと失敗したところは?  
室内からの窓もう少し大きければよかった。  
■次の冬はどうですか?  
より楽しいガレージライフを送りたいと、いろいろなガ  
レージのアイデアを参考にしたいと考えています。

**C** COMMENT FROM A BUILDER  
セーフティーライフ  
長谷川さん

ラリニボンのベンチ中にガレージのご相談をい  
ただいた開閉部。初めて現場にて見た際、現在のガ  
レージスペースはまだ税務室でした(笑)。現場調査と  
図面からガレージにおまかせ車MGAをシミュレー  
ト。アタッチメント排出側を90度曲がり加工するご提  
案を致しました。ガレージにもビックリおさまり良かった  
です。弊社では、ガレージベースの関係等から、  
開閉部のよう加工も承っておりますので、お気軽  
にご相談頂ければと思います。

愛知県名古屋市中区丸の内一丁目2番11号  
phone:052-221-8684  
<http://www.safety-l.com/>

リフォームを依頼したときに、大工さんにお願いしてL字型の樹脂受けを取  
り付けてもらいました。窓をセト、ピンテーブ  
の鋭いアイテムをディスプレイ。



設られたスペースにクルマ、排気システムを導入したため丁寧に車庫入れをして接触を防いでいる。そのためにも锚は必需品。





南西側の外壁をガラスで大きく開口したH邸。薪交いを兼ねた枠が十字架を思わせ、まるでチャペルのような佇まいである。

3年前に手に入れたというF355。もともとは赤を所有していたが、「白馬」と呼ばれる白のF355を見つけて入れ替え。この白馬で都内をドライブすることが多いという。



切妻造の屋根に左右対称の配置でデザインされた大きなガラス壁。まるで礼拝堂を彷彿とさせるこの家は、都内で会社を経営するHさんの邸宅である。玄関のドアを開け、最初に導かれるのは2階へと続くステンレス製の階段。その奥には真っ赤なF40が目に飛び込んでくる。

Hさんがこの家を建てたのは、今から約6年前。「ガレージを中心とした家づくり」というコンセプトが、まだまだ認知されていない頃だったと話してくれた。某ハウスメーカーによる条件付きの物件で建てたと

いうH邸は、設計の段階から難航したものの、思い描くインナーガレージを具現化するため、担当者に粘り強くイメージを伝え続けたことで、理想の家をカタチにることができたといふ。

完成したH邸は、道に面した南西側の壁面をガラス張りにしたこと、どの部屋も非常に明るく開放感のある空間を実現。1階部分は2台のクルマを縦列収納できるインナーガレージのほかに、広々としたホビースペースと寝室を配置。主な生活スペースを2階と3階に設けることで、Hさんの完全なる趣味空

## 01 “痒いところに手が届く”プランで理想のインナーガレージを実現した。

東京都 H邸

家づくりと同じようにガレージづくりにおいても、

作り手によって提案されるプランは千差万別。

H邸のガレージは、施主の“こうしたい”というイメージに加えて建築家によるプラスαの修繕プランにより理想のガレージを作り上げた。

text/Emiko-BABA(馬場恵美子)  
photo/Masatake-ISHIKO(石河正武)



裏に2台駐車しても余裕のスペースを確保したインナーガレージは、Hさんのセンスあふれるアイデアにより完成した自慢の空間だ。



"赤"をテーマにした空間。奥に見える跳ね馬の旗と、『機動戦士ガンダム』に登場する赤いザクの模型をF40越しに眺めるのがHさんのお気に入り。



ホビールームの床に埋め込まれたディスプレイケースには、フェラーリのエンブレムを纏ったオブジェが収められる。

間と家族の生活空間の住み分けを妥協することなく可能にしたのである。また、Hさんがこだわったというインナーガレージは、2台のフェラーリを縦に駐車してもゆったりのスペースを確保。暗くなりがちなガレージ内に外光を取り入れるため、壁側にデザイン性のある小窓を設けるなど、Hさんのセンスあふれるアイデアが取り入れられた。

さらに、遊びのない大きな一枚ガラスの設置は、ストレスなく愛車を眺めることができるよう特注でオーダー。設計の段階からフェラーリがより美しく、より格好よく見える高さを緻密な計算で割り出し、大きなビ

クチャーウィンドウをイメージして設置。一日の生活を通してさまざまな角度から眺められるよう、それぞれのフロアの高さはあえて変化の富んだ設計に。一段低い位置に置いたソファからフェラーリを見上げる構図は、船の出帆をイメージして配置。寝室から見下げる構図やホビールームから階段越しに見るフェラーリも、お気に入りのピューポイントなのだと。

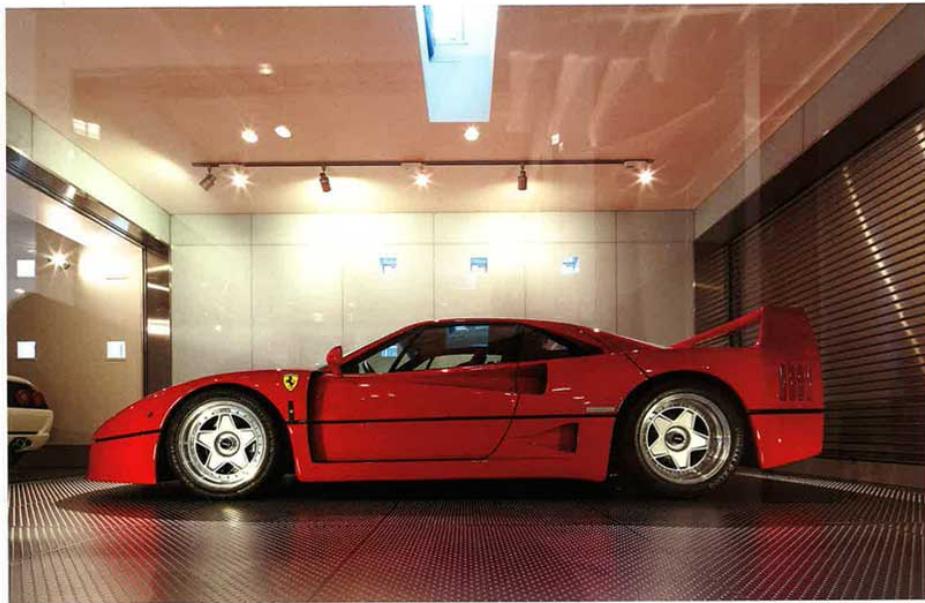
そんな憧れのインナーガレージを手に入れたHさんだったが、住み始めていくつかの不都合が見えてきたという。中でも一番の悩みは、シャッターの隙間から吹き込む土埃の侵入だ。そこで、風の侵入を防



左／シャッター下の隙間から土埃の侵入を防ぐステンレス製のL型パネル板。ちょっとしたアイデアだが、このパネルの設置により快適なガレージライフを送ることができるのだ。  
右／東島さんがもう一つ提案したのが、「スーパーティーライフ」の排気システム「EG Way Out!」の設置。ガレージ内をクリーンに保つことが可能。



1／フェラーリの代名詞"跳ね馬"をモチーフにした旗をバックに、Hさんの大好きな"赤いザク"の模型で赤い空間を演出。 2／船窓をイメージして特注で設えられた丸い窓。その下にはCDチェンジャー。 3／寝室からガレージを眺めたところ。起床から消灯するまで眺めていたいというHさんの要望により大きなガラスを採用。



ソファに座って眺めたところ。このアングルは出帆する船をイメージして設計。外光を取り入れるスクエアの小窓もデザインとして機能。

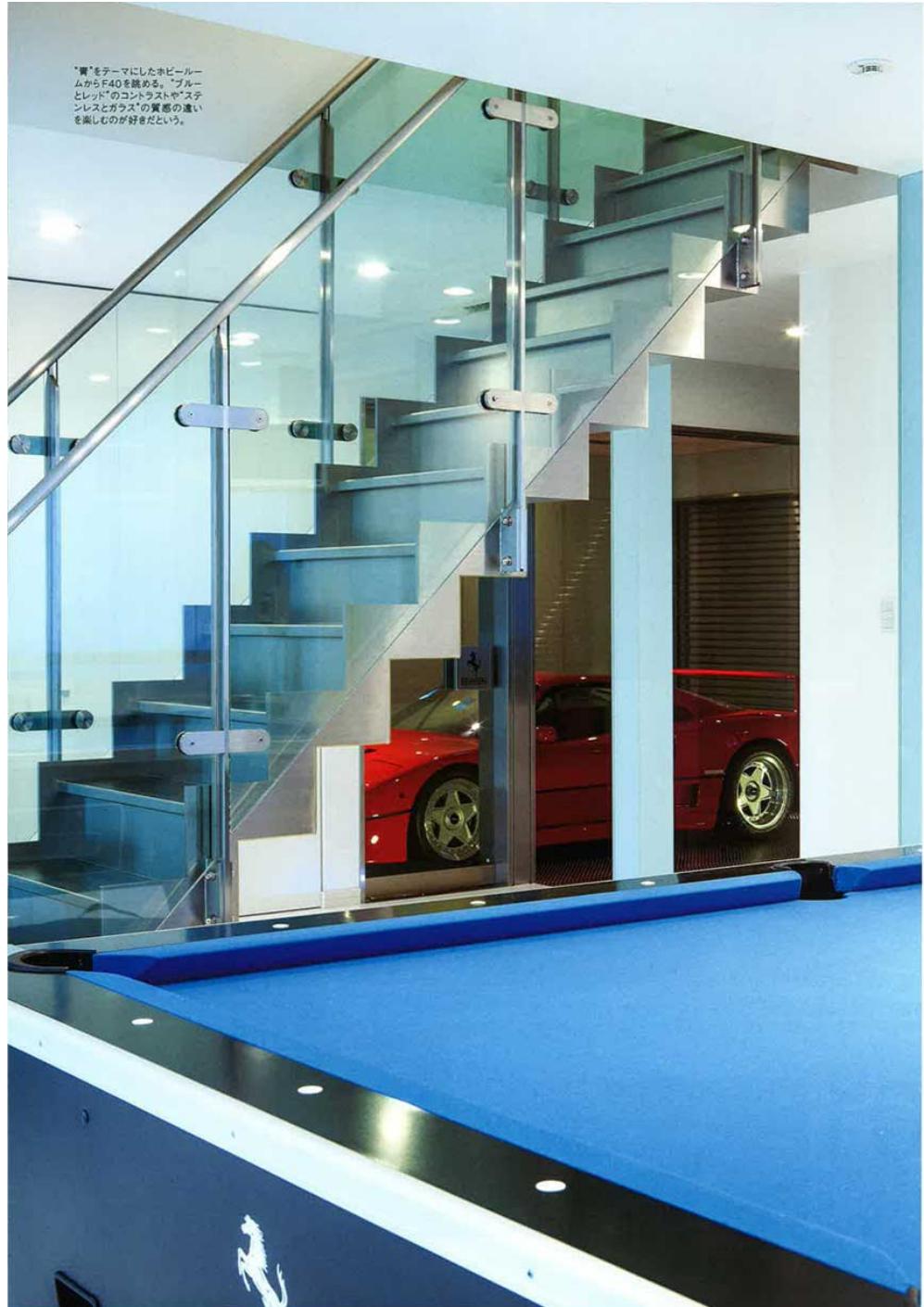
## 01 ライティング次第で異なる表情を覗かせる車好きならではの照明プラン。

GARAGE LIFE EXAMPLE  
A RESIDENCE OF Mr.H



左／下から照らすスポットライトはHさんのアイデア。夜な夜なワイヤレスを飲むながら観渡す光の角度を見つける時が楽しい。右／天井のスポットライトは当初3灯だけだったが、東島さんの提案でさらに3灯を追加。それによりF40の美しさが一段と増したといい。

「青」をテーマにしたホビールームからF40を眺める。「ブルーリレット」のコントラストや「ステンレスとガラス」の質感の違いを楽しむのが好きだという。



# 01

GARAGE LIFE EXAMPLE  
A RESIDENCE OF MOH

PLANNING DATA & MATERIALS  
色と質感にこだわることで統一感ある空間を演出。

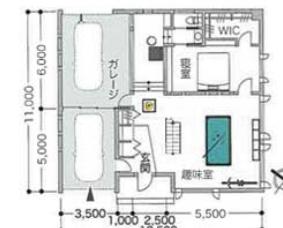
ぐ対策をインターネットで調べていたところ、またまた見にした「Kurashima design office」のサイトを見て、ガレージづくりに造詣が深い倉島さんにさっそくコンタクト。ステンレス板をL型に加工したパネルをシャッターワード下の隙間に沿って置くことで、土埃の侵入を防ぐことができる提案してもらったという。他にも、フェラーリの美しさが際立つ照明プランや排気ダクトの設置など、些細なことだが倉島さんのちょっとしたアドバイスのおかげで、ガレージの中が一気に輝きを放ち始めたといだ。

今こそ、ガレージに理解のあるハウスメーカーや工務店も増えてきたが、施主の要望以上の提案ができるのは、クルマやガレージの魅力を知り尽した作り手ならではのアイデアがあつてこそ。H邸のガレージは、まさに「瘦い」とこに手が届く「プラン」により実現した理想の空間なのである。

C COMMENT FROM A BUILDER  
Kurashima design office  
建築家 倉島理行さん

最近の動向として、本社建設はメーカーさんに依頼し、特徴な部分は、専門の建築家に依頼する「設計監修」が増えております。シャッターワードの埃落し防止やガレージクリーン化、車の鑑影を楽しむライティングプランなどをプロと相談し込んだガレージ。これからは一緒に「Car Life」楽しみましょう。

埼玉県さいたま市南区内谷6-3-15 3F  
Phone: 0120-301-004  
<http://www.kurashima-design.com/>



左／「青」をテーマにしたホビールームに鏡面感の強いフランジから取り寄せたというビリヤード台。最近、子供たちの卓球台になりましたが、倉島さんは「卓球台に変更してもいい」とおっしゃるといだ。右／娘さんの自転車を探しに行つたお店で見つけた自転車。ブルーにマットの質感をするイメージをしっかりと持ち、どんな空間にしたいかを相談して購入。白い壁に映えるユニークなアイデア。

P PLANNING DATA  
所在地 東京 恵比寿  
施主 Hさん  
竣工年 2007年8月  
構造鉄骨造  
建築面積約330m<sup>2</sup>  
ガレージ面積約44.5m<sup>2</sup>  
愛車専用ラーメン355ベルリネット／フェラーリF40／マセティランボルギーニMCV／日産フェアレディ240ZG(1970年式)／マツダロードスター(NASC)／マツダRX-7(FC3C)

O OWNER'S CHECK  
■一番気にしているところは？ 締ぎ目のない大きめ一枚ガラス越しに見るインテリア。ガレージのシャッターワード下の隙間だったが、倉島さんは「隙間がないように」と設計した。

■次の夢はなんですか？ 所有するNASCでドリフト走行をサーキットに通う練習中。いずれはFC3Cでもドリフトしてみたい。

■読者へのアドバイス！ ガレージも家づくり同様に、自分の理想とするイメージをしっかりと持ち、どんな空間にしたいかを相談して購入。白い壁に映えるユニークなアイデア。